

## 在日韓国・朝鮮人社会における仏教 および民俗宗教寺院の諸形態

飯 田 剛 史

- 目次 I. 在日社会の仏教・民俗宗教寺院調査
- II. 街の寺と山の寺
- III. 寺院の諸類型
- IV. 寺院活動の諸形態

### I. 在日社会の仏教・民俗宗教寺院調査

在日韓国・朝鮮人社会は、世代交替、定住化選択、新たな来住者層の参加などによって大きく変わりつつある。今日の在日社会は、日本社会の中の一下位システムをなしているが、それは当然の事ながら、植民地支配、差別という在日韓国・朝鮮人の歴史的條件を媒介にして成立している。そしてその生活文化も複合的な社会・歴史的條件の中で多層的な展開をみせている。すなわち、現代日本の生活様式への同化が進む中で、一・二世を中心として民族的生活慣習が保持され、他方、若い世代のエスニック・アイデンティティ再構成の運動がおこるなど、人々はその生活文化を自覚的、無自覚的に様々な方向に向けて発展させているのである。

宗教は、生活諸文化のなかで比較的、在日固有の形態を保有し展開させる領域であるといえる。それは可視的な文化領域一言語・衣・住などにおいて均一化が進んでいるのに対し、宗教活動は、在日生活者の深層心性に根差した危機処理の一形式であり、主に「うちわ」の営みとして日本人の視線からは見えない領域として保たれて来たからである。

筆者は昨年度、文部省内地研究員として京都大学文学部に籍をおき約10ヶ月間、大阪市生野区の在日韓国・朝鮮人の集住地域で宗教社会学の観点から宗教活動全般についての実態調査を行う機会を得た。今回はそのデータのなかから、在日の仏教および民俗宗教寺院に焦点をおいて報告したい。

在日社会における「寺」は、多様な形態を含んでおり、単一概念によって捕らえることは困難である。もとより日本の伝統仏教寺院のイメージで理解することは出来ない。日本の伝統仏教寺院はそれ自体が仏教として特殊な形態であるので、ひとまずそれを標準的イメージとする思考習慣を解除する必要があるだろう。

在日の「寺」に関して、生駒山系に約60の「朝鮮寺」が存在することを筆者らは報告し（宗教社会学の会編『生駒の神々—現代都市の民俗宗教—』1985年、創元社）、また、六甲山系宝塚市山本の谷にもいくつかの「寺」のあることが知られている。（曹奎通、「巫者たちの谷々—生駒、宝塚の韓寺を歩く—」、『済州島』、第三・四号、新幹社、近刊）。ここでは、それ以外の街中にある「寺」について紹介したい。街の「寺」についてはこれまでまとまった資料も研究もないのでこれが最初の調査報告になる。

在日の「寺」は、街なかの小規模な民家に寺名を書いた看板ないし小額を掲げ、内部の部屋に祭壇を設けているものが大部分である。

その「住職」は、韓国仏教僧、総連系僧侶、民間祈禱師、修験行者、シンバン（神房：済州島の巫覡）など様々の宗教者からなり、その活動内容、社会機能は様々である。また韓国・朝鮮の宗教と日本の宗教との混交や近年韓国から来日する多くの僧尼、民間宗教者などの活動により、その形態はなお流動的な展開過程にある。

また、生野区には日本の伝統仏教宗派寺院、神道神社、諸新宗教の施設、在日の祈禱師・占師などの家が存在し、それらは在日の「寺」と連続するカテゴリーとして扱われるべき事象であるが、ここでは、在日社会の街のなかで自ら「寺」と名乗る宗教施設に限定して、そのデータを提示したい。これは1988、9年における生野区在日社会の宗教生活史の一断面を記録するものであり、筆者は次の機会に、これを基礎資料として「寺」の社会機能、社会構造的な位置付け、さらに「寺」をめぐって在日の人々が構成する「世界」の総合的理解を試みたいと考えている。

「寺」のリストは、「大阪市精密住宅地図16生野区」、「同15東成区」（1988年、吉田地図株式会社発行）を精査して、在日のものと思われる「寺」をピックアップし、また「大阪府宗教法人名簿昭和61年度版（大阪府企画部教育課1986年発行）」も参考にした。またこれらに記載されないが聞き取りによって所在を知った寺もある。

聞き取り調査は1988年11月から1989年1月にかけて、秋庭裕（大阪大学大学院）、寺岡伸吾（京都大学大学院）両氏の協力を得て行った。調査を通して、生野区を中心として大阪、兵庫、京都の街中に40軒近くの在日の「寺」が見いだされた。

調査の中で「在日韓国仏教会名簿（仮）」（1963年）を資料として得、これに所載の寺と現存の寺との照合も行い、25年の間に大きな変遷のあることを知ったが、それについての検討も次の機会に譲りたい。

以下これらの「寺」について、聞き取り資料に若干の整理を加え出来る限り生の形で、すなわち話し手の主観を含んだままの形で提示する。

なお関東、九州方面にも幾つかの在日の「寺」があり、大野祐二氏（駒沢大学大学院）が調査中である。

## II. 街の寺と山の寺

ここではごく簡単に、街の寺と生駒および山本にある山の寺を比較し、相違点と共通点を下の表に示しておく。

	街の寺	山の寺
共通点*主体	祈禱師、韓国僧、シンバン、管理者、占師	
相違点*立地	在日の集住地域	生駒山および山本の谷口、谷筋、生駒山中腹宝山寺付近
*形態	祭壇室を備えた民家、少数は寺院建築	本堂、祈禱室、七星堂、宿泊施設、滝行場など
*活動	相談、小祈禱、住居	泊りがけの祈禱、クッ（賽神）

活動主体は、両者ほぼ同じタイプの宗教者によって構成されており、山と街を往復して活動している例が多い。どちらも「寺」を創立した中心的主体はポサル（菩薩）およびスニム（僧任）と呼ばれる一世の祈禱師たちである。男女の祈禱師は、韓国（朝鮮）語のお経を読むなど一応仏教的な要素をもつが、修験道、韓国巫俗あるいはそれらを混交させた自分流の仕方ではシャーマニックな祈禱を行う。

山の寺では一世の祈禱師の老齢化ないし死去の後、別のより若い祈禱師がその寺を買い受ける場合が多く、最近では韓国からの来日僧が頼まれ住職としてそこに入る場合が増えている。また宗教的後継者がいない場合は、管理者または留守番がいて祈禱の貸し会場となる。山の寺は街中の寺（一般に敷地15～30坪くらい）に比べて概して敷地が大きく（敷地100～200坪くらい）、本堂や祈禱室、滝行場などの施設を備えるが、日常の住居には適さないため、何等かの形で寺として受け継がれるわけである。それに対して街中の寺は、建物が住宅そのものであるので一代限りで廃寺となるものが多い。

韓国僧は在日社会への仏教布教のためにまず韓国系寺院に身を寄せるが、祈禱師からの祈禱参加の誘いや山の寺からの住職者としての招きに乗ることによって自らが祈禱師としての存在に変質してゆくことが多い。

シンバンは済州島巫俗の伝承者であり、本来仏教とは別のジャンルに属するのであるが在日社会ではシンバンが「寺」をもつケースも生じて来ている。

最近の韓国からの来日祈禱師たちは、アパート、マンションの部屋に祭壇を設け、「卍」のマークや「運命鑑定」などの張紙をして古いと祈禱を行うが、まだ「寺」の看板をかかげるまでにはいたっていない。いわばその予備軍といえよう。

山と街という立地の違いがそこでの宗教活動に相違をもたらせている。祈禱は鐘や太鼓、ドラなどの大音響の囃子をともなうので長時間のものを街なかで行うわけにはゆかない。そこで大規模な祈禱やクツ（賽神；巫俗儀礼）は、儀礼場と宿泊施設を備えた山の寺で行われることになる。

### III. 寺院の諸類型

街の「寺」は形態も活動内容も多様であるが、主としてその活動主体の性格から類型化を試みると次のようになる。

1. 韓国仏教系寺院；韓国の曹溪宗寺院で修行を経てから来日した仏教僧侶によって創設された寺。僧侶は男性で戒律により独身を保っている。仏教布教をめざすが、日本仏教寺院にならって葬式や盆の死者供養を行う所が多い。クツ（賽神）やシャーマニスティックな祈禱は寺では行わない。

〔(1) 大圓寺、(2) 清光寺、(3) 普賢寺、(4) 高麗寺、(5) 民衆仏教観音寺、(6) 仏智禅寺〕

その他曹溪宗寺院で東京に明月寺（北区田端）、弘法院（文京区）、下関に光明寺がある。

2. 総連系寺；朝鮮総連の傘下にある在日本朝鮮仏教徒連盟に加盟している寺。

〔(7) 統国寺、(8) 寶林寺、(9) 大乘寺、(10) 大圓寺、(11) 萬寿寺〕

その他東京に、国平寺（小平市）、妙巖寺（荒川区）がある。

3. 民俗宗教系寺院；活動主体はポサルまたはスニムと呼ばれる民間宗教者である。ポサル（菩

薩)とは韓国で尼僧または女性の仏教篤信者をいうが、在日社会では女性の祈禱師をいう。スニム(僧任)は男僧の敬称であるが、在日社会では韓国系寺院の僧侶のみならず経を読む祈禱師をさす。ボサル、スニムが夫婦をなしている場合が多いが、単独の場合もある。

多くは日本の修験道系宗派(高野山大師教会、真言宗醍醐派、金峯山修験本宗など)に属しているが、名目的な所属もあれば実質的に修験者として活動するものまで多様である。いずれも教義の布教よりも祈禱による「現世利益」行為に主眼が置かれる。

街の寺は住居と相談所および小祈禱所を兼ねており、大きな祈禱は生駒の寺を借りて行う。したがって両者は機能分化しつつ相互補完関係によるわけである。

祈禱様式は済州島巫俗のクツ(賽神)であったり、修験祈禱であったり、混交あるいは我流のものであったり様々である。戦前からの在日に加えて最近来日した民間宗教者の活動も盛んである。

〔(12) 松江寺、(13) 浄光寺、(14) 萬福寺、(15) 大聖寺、(16) 観徳寺支部、(17) 禅法寺、(18) 天下寺神、(19) 寶音寺、(20) 尚容院、(21) 妙教寺、(22) 龍雲寺、(23) 龍泉寺、(24) 平和寺以下は聞き取り調査はできなかったがこのカテゴリーに属すると推定されるもの。(25) 恩光院、(26) 観音寺、(27) 康成道院、(28) 大成寺、(29) 宝巖寺、(30) 幸楽寺、(31) 法輪寺〕

4. 独立系寺院；教義、組織、活動ともに独立的なもの。

〔(32) 無窮正道教総本山、(33) 大天心寺、(34) 天尊の家〕

5. 日本仏教寺院；非修験系で日本の伝統宗派寺院を在日韓国・朝鮮人が住職として継承したもの。

〔(35) 国分寺、(36) 仏国寺、(11) 萬寿寺〕

6. その他

〔(37) 韓日日韓仏教親善協会大阪支部、(38) 龍王宮〕

#### IV. 寺院活動の諸形態

以下、各「寺」について、次の項目順で記載してゆく。

(No) 寺の名称、

[宗派 住職名 国籍 所在地]

[住職経歴]

[創立]

[活動]

[その他]

(調査者 年月日 話し手)

データとして記された内容は、話し手の言葉に若干の整理を加えたものである。したがって話し手の価値観やしばしば曖昧な年代などの記憶がそのまま記載されており、「客観的」な立場から削除および修正することは最小限に止まっている。手元の別の資料で修正しうるのはしたが、話の内容の大半はその人物の話が唯一の資料であり、チェック不能に近い。しかし筆者は、話し手が「主観的」に誠実である、すなわち自らがそう思い信じるとうりに話して頂いたという前提で、「在日の

寺の世界」を個々の「寺」の聞きとり資料によって語らしめたいと考えている。

話し手が、「寺」の住職ないし責任者である場合はとくに記さず、それ以外の場合のみ最後に記した。筆者のコメントは（ ）カッコに入れた。

## 1. 韓国仏教系寺院

### (1) 大 圓 寺

〔在日大韓仏教曹溪宗 権三圓 韓国籍 生野区鶴橋

1-6-29〕

〔住職経歴〕 1934年全羅南道木浦で生まれ、海印寺で修行。1950年頃来日、日本の禅宗を学ぶため。1959年花園大学卒。独身（曹溪宗の戒律である）。

〔創立〕 寺は1952年頃創立、1966年頃宗教法人化、1978年頃3階建に建替、敷地20坪。

〔活動〕 葬式、法事、放生会する。遺骨預かりは場所がないのでしない。クッ、七星祭など民俗宗教的なものはしない。

僧は他に3、4名おり、みな曹溪宗宗務院を通して布教師として来ている。

同じ曹溪宗の普賢寺とは頻繁ではないが付き合いがある。

生野区にある臨済宗の難波寺に檀家の遺骨を預かって貰うことが多い。

檀家（つねにお参りする人）は3000世帯くらい（1984年、ソウルの曹溪宗宗務院で得たデータでは800人）。檀家の間で、婦人会、居士会、青年会、青少年会がある。日曜の法話に出る人は40人前後。

檀家は日本に帰化した人、通名を名乗っている人も多い。鶴橋、枚方、京都など大阪近辺から来る。保護司、刑務所の教戒司もしている。

〔その他〕 「信者は生活よくなりたいという願いをもつが、そこからどのように教えに目覚めさせ導くかが問題。『有り難いな』という心を感じることで、それが宗教だ。座禅をし本来の自分を見、自分を切り開いてゆけるように導くことをめざしている。」

「日本の仏教は素晴らしいと思っている。大乘仏教として韓国よりも民衆の間に良く浸透している。住職が、先生、裁判官、公務員などの勤めをし寺では法衣を着て法を説く、これが良いのではないか。」

「大学では寺院経営も学んだ。時代に遅れない寺のあり方が大事。本願寺など伝統教団の在り方も組織から生まれた信仰として意味がある。」

「在日僑胞もいずれは日本人になると思う。今の日本人の先祖も八割は韓国から来ている。扶余（百済の旧都）へ行くと子供の遊び声、空気など日本とそっくりだ。扶余は日本だし日本は韓国だなと思った。韓国人と日本人との結婚により新しいものが生れて来る。」

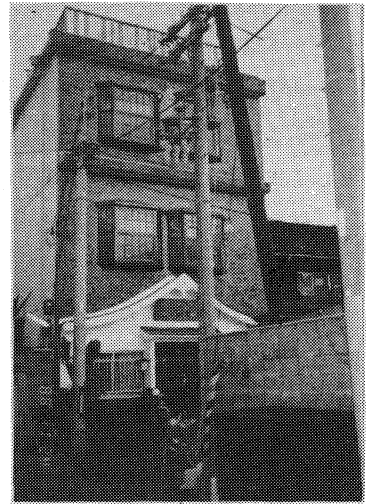


写真1 大 圓 寺

「外国人登録証の指紋押捺については、特に必要なこととは思えないが、日本の法律でそうになっているのなら押してもよい。気持ちの持ちようではないですか。」

(調査：飯田、'88 11/25)

## (2) 清 光 寺

[在日大韓仏教曹溪宗 慎浄園 韓国籍 生野区桃谷 3-8-7]

[住職経歴] 1935年大阪市生まれ。本籍済州道。母親は出家、かぞえ14才の時韓国海印寺で得度、修行。当時韓国仏教界の「浄化運動」に参加、そのため十分に勉強ができず、1962年頃日本に戻り、龍谷大学、大正大大学院に学ぶ。独身。学問僧として本格的な「禅」の在り方をめざしている。

[創立] 1962年頃、先代のポサルの寺を受け継ぐ。

[活動] クツはせず、シンパン、祈禱師とは関係持たず。

葬式、法事、花祭り、盆行事する。

韓国からの修行僧が来ている。

(調査：秋庭、'88 12/2)

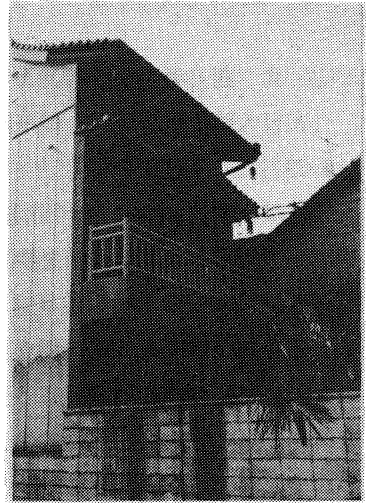


写真2 清光寺

## (3) 普 賢 寺

[曹溪宗総本山宗務院 釈泰然(管長 本名金千洙) 釈永植(住職)他に数名の僧が諸役を分掌 みな韓国籍 生野区勝山北 5-7-39]

[管長経歴] 1937年全羅北道生まれ。朝鮮戦争で家族を失い、17才で出家。海印寺で修行、済州島の円明寺に入る。1968年「日韓仏教交流使節団」一員として来日、大阪で在日同胞に滞留を懇願された事がきっかけとなって、普賢寺を創設。1972年には高麗寺を創立。

[創立] 1968年創立。一階は廊下をはさんで左手に僧房が並び、右手に事務所、食堂、炊事場。二階に本堂と管長室、研究室。

[活動] 年中行事は、1月1日(新旧暦で、他の行事は旧暦で)、1月15日放生会、4月8日花祭り、7月7日七星祭、7月15日盆、8月15日秋夕、12月8日成道日。旧暦正月に檀家まわり。

葬式をする。シャーマニクな祈禱はしない。

信者3500世帯、済州島出身の一世女性層が中心。七星会あり。

韓国仏教界と交流盛ん、来日僧のセンター的役割。

(調査：飯田、数回、『生駒の神々』参照)

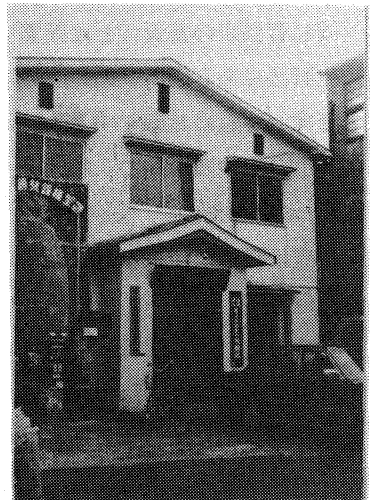


写真3 普賢寺

#### (4) 高麗寺

〔曹溪宗 釈泰然 韓国籍 京都府相楽郡南山城村童仙房 8〕

〔創立〕 1972年創立。1974年、宗教法人化。

〔活動〕 普賢寺の姉妹寺。大規模で本格的な韓国様式寺院。

民族専用共同墓地を造成し分譲中。

韓国人大戦犠牲者慰霊塔1987年建立。

水子地藏約200体。

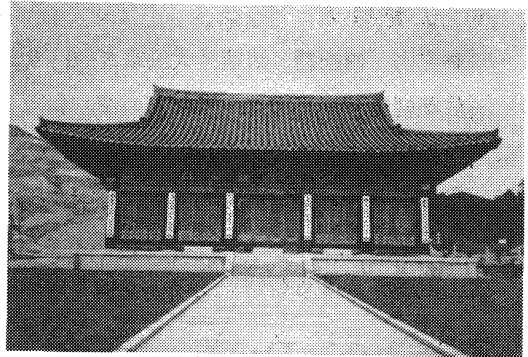


写真4 高麗寺

1月3日厄除祈禱、旧7月7日七星齋、旧1月

15日、7月15日龍宮淹齋、その他水子地藏供養、御灯明祈禱を行う。

山中の別天地にあるが交通不便。

（調査：飯田、'87 5/18）

#### (5) 民衆仏教 観音寺

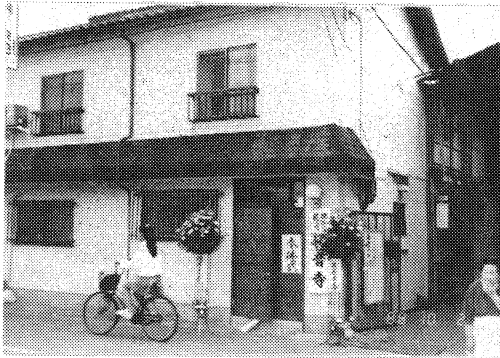


写真5 民衆仏教観音寺



写真6 民衆仏教観音寺奉仏式に集う人々

〔釋円然（住職） 釋性大（副住職） 共に韓国籍 生野区鶴橋 3-5-2〕

〔住職経歴〕 釋円然住職は、1942年ソウル生まれ。海印寺、円明寺（済州島）等で修行。その後一人で山中や街を托鉢放浪していたが、円明寺で兄弟子だった釈泰然氏（普賢寺(4)管長）に勧められて1982年来日、普賢寺に入る。のち高麗寺の担当となるが、寺をめぐるトラブルに苦しむ。

〔創立〕 1988年10月2日、奉仏式が行われた。普賢寺の支持を離れた有力信者などが釋円然氏を担いでこの寺を設立した。

〔活動〕 信者は二世中産層の主婦が中心。信者代表者の祝辞によると、新しい寺に求めるのは「民衆の願いに密着した活動すなわち家内安全、商売繁盛その他易占、四柱推命などの相談事」という、住職はそれに応えながら仏教の教えを説くことに「民衆仏教」としての道を模索している。

当初信者32世帯、89年1月には70余世帯。信者数、寺の諸施設などの面は順調に発展している。今後の展開が注目される。

(調査：飯田、'88 10/2、12/9・11・22、'89 1/8)

## (6) 仏智禅寺

[林玄宗 韓国籍 浪速区大国町3-9-6 ハイッ・ヨシノ307]

[住職経歴] 林氏は近来の若い僧、大阪ミナミの繁華街に働くの若い韓国来日女性層に布教していると聞く。

(調査：寺岡、'88 12/9)

2 総連系寺院；朝鮮総連の傘下にある在日朝鮮仏教徒連盟に加盟している寺。

## (7) 和気山 統 国 寺



写真7 統国寺



写真8 統国寺 遺骨堂内

[在日本朝鮮仏教徒連盟 徐泰植 天王寺区茶臼山 1-30]

[住職経歴] 徐住職は1917年全羅北道生まれ。一人息子だったが僧にならないと短命に終るといわれ14才で寺に入る。15才、忠清南道鷄龍山の元新寺で得度。ソウルの中央仏教専門学院で学ぶ。時代にあう仏教を学ぶため1940年来日。尼崎の朝鮮仏教布教所に入る。これは1937年頃、先輩の孫鳳吉氏がつくったもの。孫氏は戦後南に帰り、後を継いだ徐氏はこれを大圓寺(10)と改めた。現在も尼崎市にあり、僧籍でない子息が管理している。1944年軍需工場に徴用。戦後、尼崎市の大島および大庄朝鮮初級学校長となり、阪神教育闘争に参加(1948年、日本政府の民族教育否定の方針により各地にあった朝鮮人学校が閉鎖させられた。これに対し激しい反対闘争が起こった)。48年在日本朝鮮仏教徒連盟結成。1960～70年代大島朝鮮初級学校会長を勤める。79年統国寺に入り、80年住職となる。

戦後結婚、子供は皆非宗教で独立。

[創立] 七世紀、聖徳太子の命で百済僧観勒が創建したと伝えられる。百済古念仏寺とも呼ばれた。1615年大阪夏の陣で焼失。1703年黄檗宗法源和尚が再興し和気山邦福寺とする。山号は近く



に和気堀を開かせた和気清麿にちなむという。通称、雲水寺。今も境内には江戸時代の文人学者の墓が多く残っている（三善貞司、『大阪史跡辞典』清文堂出版、1986年、pp.449～454参照）。第二次大戦後荒廃。1970年在日本朝鮮仏教徒連盟（総連系）により和気山統国寺として再々興、住職金景煥氏。80年より徐氏住職。

大雄殿（本堂）は邦福寺創建当時の雄大なもの。他に鐘楼、統一祈念石塔二基、庫裏、大広間。遺骨堂には700余柱の在日の遺骨。山門はネオンまばゆいラブ・ホテル街のただ中にあるが、うら庭の展望台は河底池を挟んで茶臼山古墳に面し、大阪の街中とは思われない清寂境である。街なかにある在日の寺ではずば抜けて規模が大きく施設の整ったものであろう。

〔活動〕 行事としては、元旦、盆（秋夕）、花祭り、冬至などに信者が多く集まる。閏年には慰霊祭をする。

クッ、七星祭、占いなど民俗宗教的なものは一切しない。

信者は遺骨を預けている500世帯ほど。墓を造ると寺には来なくなる。一世は少なくなり、二・三世は仕事で忙しい。しかし毎日何人かは来る。

徐住職は朝鮮人民民主主義共和国が主催するいくつかの国際会議や、アジア仏教徒平和会議に在日本朝鮮仏教徒連盟代表としてしばしば出席している。宗教者は宗教の枠を越えて平和と祖国統一のために働くべきと説く。韓国系の寺は宗教の枠のみに止まっており、また迷信を容認して金儲けを考える僧も多いと批判する。

（調査：飯田、'88 12/25、'89 1/13、1/18）

#### (8) 寶 林 寺

〔在日本朝鮮仏教徒連盟 高秉廈 朝鮮籍 生野区勝山北 4-10-21〕

〔住職経歴〕 高氏は済州道出身、80才を過ぎている。

〔創立〕 1958年頃高氏がこの地で創立。

〔活動〕 1970年当時、統国寺建設委員会はこの寺におかれていた。

住職の高齢と病気で10年程前から活動していない。

（調査：秋庭、'88 12/9）

#### (9) 大 乗 寺

〔在日本朝鮮仏教徒連盟 金景煥 朝鮮籍 神戸市長田区大谷町〕

〔住職経歴〕 金氏は1907年頃生。1970年から80年まで統国寺住職。

〔創立〕 長田朝鮮仏教布教所として戦前に創立。

〔活動〕 神戸市の在日の多く住む地域にあり、平和寺(24)もすぐ近い。葬式は多いようでよく維持されている。

（調査：寺岡、'89 2/7）

#### (10) 大 圓 寺

〔徐泰植 朝鮮籍 尼崎市北城内74〕

〔住職経歴〕 1937年頃、孫鳳吉氏が尼崎朝鮮仏教市教所として創設した。孫氏は終戦後南朝鮮に帰り、徐氏がこれを継いで大圓寺と改めた。徐氏は現在大阪市天王寺区の統国寺の住職をしており、大圓寺は僧籍でない子息によって管理され宗教活動はしていない。

（飯田、徐泰植氏に聞く、'89 1/13）

### (11) 萬 寿 寺

〔臨済宗東福寺派 在日本朝鮮仏教徒連盟 京都市東山区東山通り九条〕

〔創立〕 11世紀白河上皇の願により六条御堂として創立。十三世紀禅宗となり萬寿寺と改称。京都五山の一に数えられた。戦前から同寺で修行していた尹一山氏が戦後堂守となる。87年同氏没後、子息の尹青眼氏が住職として後を継ぐべく修行中。

（飯田、徐泰植氏に聞く、'89 1/13）

## 3. 民俗宗教系寺院、

### (12) 松 江 寺

〔高野山大師教会 金法純（本名元順、女性） 韓国籍 生野区鶴橋 2-19-19〕

〔住職経歴〕 1919年済州道生まれ。1950年頃来日。服部川の平和山不動院で釈全良師（本名金氏、1976年頃亡くなる。）のもとに高野山修験を11年間修行。師の最後の弟子。

〔創立〕 1973年頃この地に創立。1987年に宗教法人を申請。祭壇には、釈迦、観音、不動、弘法大師像のほかに済州島信仰に特有の七星、山神、海神の三幅図を祭る。

〔活動〕 クツはしない。「ボサルとは同じ席に座ったこともない。」

年中行事（旧暦）が中心。1月厄払い（生者のため）、2月釈迦の入滅、3月厄払い（死者のため）、箱作海岸で龍船を流す、5月4日（これのみ新暦）信者と高野山に参る、宝城院に泊まる。5月8日花祭り、7月盆、12月8日成道会、冬至。

葬式と年忌参りもする。

信者約200人。位牌約150位祭る。活動盛ん。

後継者は弟子の張愛順さん、（法名戒環 女性）、曹溪宗で得度しソウルの弁門寺にいた。太古宗の先生の紹介で8年前に来日、花園大学に学び現在博士課程在学中。

（調査：秋庭、'88 12/1）



写真9 松江寺

### (13) 浄光寺

〔真言宗高野山支部 谷川善如（本名康太辰）、谷川光永（女性） 生野区鶴橋 2-12-21〕

〔住職経歴〕 善如氏は1909年頃済州道表善面加時里生まれ。1925年来日。大淀区豊崎にいた。30年前大病をし、いとこの姉さん（故人、ポサルで玉造たつまの観音寺にいた）のすすめでスニムの道に入る。宝塚の山本で修行。信貴山不動院の石川（金ホウセイ）氏に習う。ポサルの光永さんとこの地に寺を開く。光永さんは占いの評判が高かった。

〔創立〕 1958年頃創立。

〔活動〕 今は光永さんが病気で寺の活動は低調。善如氏は大きな祈禱に呼ばれることがある。シンバンとは道が違うので一緒に仕事はしない。瓢箪山の極楽寺、石切の妙覚寺とも親しい。

（調査：寺岡、'88 12/9）

### (14) 萬福寺

〔金峰山修験本宗 金如好（女性） 韓国籍 生野区桃谷 2-6-18〕

〔住職経歴〕 1923年済州道旧左面杏源里生まれ。1934年来日。7才頃から病弱、32才の時病重くなり、神を祭らなければだめだといわれ、不本意ながら修行を始める。滝行は、武庫川で先生（故人）につき、生駒の日本人修験者の滝にも行った。当時は新大阪に住んでいた。

娘は新大阪で運命鑑定業をしている。

〔創立〕 寺はもと八尾市黒谷にあり日本人行者亀井氏より受け継いで30年いたが、地盤が崩れたので、1983年この地に移った。

〔活動〕 シンバンではないが、一緒にクツをする。鳴川谷宝光寺でよくする。

母の妹の息子李仲春シンバンが妻の韓一春シンバンと済州島より来日し滞在していた。

（調査：秋庭、'88 12/9）

### (15) 大聖寺

〔高野山大師教会 金海玟圭 生野区桃谷 3-15-14〕

〔住職経歴〕 1931年済州市禾北里生まれ。1951年密航で来日。1975年登録。

病気で十数回手術した、生きるか死ぬかの時靈感がきた。親戚兄弟が集まり、死ぬよりこの道を歩いたほうが良いということになり修行をはじめた。その前はプレスの仕事。やり方はみな自分で研究した。宗派の大師教会は免許（権教師、1976年）をもらうため。妻は宗教に関係なし。

〔創立〕 1977年近所に創立、1980年ここに移る。自宅二階に祭壇。

〔活動〕 おもにノイローゼ、家、先祖、神さんの祟り、障りなどを拝む。墓の祟りは墓へ行って拝む。信者の家へは年に

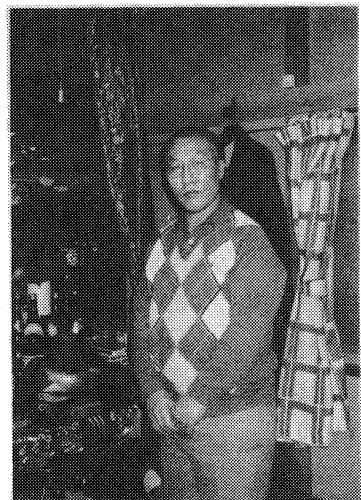


写真10 大聖寺 金海玟圭氏

一回まわって家の拝みをする。クツにも加わる。

生駒山の寺々をはじめ全国に行く。

年中行事は、1月15日、4月8日、7月7日、7月15日、9月9日、冬至。

信者300軒、観音教会という組織をつくっている。日本人信者は50軒くらい。300軒のうち半分以上ははじめからついている信者。

「この道は信者の取り合いですわ。日本人は動かないが朝鮮人の信者は動く。奉仕料の安い方へ動くことがあるが、安ければ良いというものでもない。効力と費用の兼ね合いです。」

「生野区でシンバンは30～50人位いる。大きなクツの出来る人は15人位。金萬宝シンバン、洪(徳山)シンバン、ナイロンシンバン(桜本坊教会観音寺(26))、宋甲生(高本)シンバンなどが有力。シニム、ポサル、シンバンは差別される。シンバンは代々後を継ぐが、シニム、ポサルは一代だけ。」

(調査：飯田、'88 12/1)

#### (16) 観 徳 寺 支 部

[高野山大師教会 邊法宣(女性) 韓国籍 生野区中川西 2-15-16]

[住職経歴] 1939年生野区生まれ。本籍済州道翰林面。病弱で小学5年まで寝たきり。16才から人並みに体が動くようになった。不思議な夢をよく見た。22才で結婚、2ヶ月後に夫亡くなる。4、5年後再婚。子供5人出来たが生活苦しくなにもかもうまく行かなかった。先生に見てもらうと、事故で死んだ主人のイトコの霊がついている



写真11 観徳寺支部 辺法宣氏

といわれ、桜の宮で供養した。それが29才の時。37才の時、坊さんに山の神さんと龍王大神にお経をあげてもらったらその夜龍が降りてきて体に巻きついた。それから靈感がついた。人を尋ねると、水商売をなささいといわれた。その3日後弟がスナックを始める話をもってきた。今里に「あこ」という店を開くと大繁盛した。客のことなどよく「当たる」ので評判になった。しかし修行を始めるようになると客はこなくなった。平野の女の先生を尋ねると、この道を受けなさいといわれた。工場経営の主人は初め怒ったが結局は認めた。東成区の高さんの寺(大成寺(28))で7年間修行した。宝塚の大井寺、瓢箪山の極楽寺横の滝でも修行した。その後独立。1982年高野山で得度。

寺は自分一代だけ。

[創立] 1982年高野山より観徳寺支部認可。1983年不動尊祀る。85年この地へ移る。

[活動] 「毎年信者20～30人連れて高野山に税金(登録料)をおさめに行く。成福院に泊まる。」

「シンバンのクツにも加わる。靈感がつくと普段はしゃべれないのに韓国語がでる。」

「人が来て名字だけいうと、先祖代々から今年の運勢までみな分る。」

「左耳が少し遠いが、その耳で神霊が聞こえる。買い物に出ているとお客がくるとサイレンが聞こえる。戻れば必ず人が来ている。」

「仕事を一緒にするのは、石切霊岩寺の位の高い坊さん、浄光寺(13)のスニム、梁ポサル（大池橋）、チョカギシンバン（大成通り）、玄宝倍シンバンなど。」

（調査：飯田、'88 12/2）

# (17) 禪 法 寺

〔曹溪宗 韓公和（法名禪法華、公照、女性） 生野区中川西 2-25-6〕

〔住職経歴〕 年齢50代。済州道城山浦に生まれすぐ大阪に来る。信貴山へ近所の人たちと行き観音経をよんでいると立てなくなった。それから10年位の間にだんだんこの道に入った。病気のためではない。先生はいないが人を助けるためにはお坊さんの姿をしなければならないので、曹溪宗の李崇山師から得度をうけた。李師はロス・アンゼルスに住んでおり、大阪へは毎年やって来る。河内長野の滝、吉野山の脳天さんの滝にも行った。1972年頃から家で仏を祭る。1975年家を寺にする。1981年金峰山より公照の名をもらう。仏紀2522年（？）に清光寺(2)で菩薩受戒。

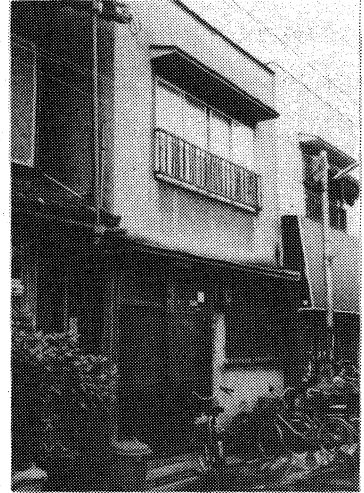


写真12 禪 法 寺

〔創立〕 1975年家の二階を直し寺にする。釈迦三尊像、不動像、七星、山神、海神の三幅図のほかに、天心観世音菩薩像（1974年松久宗琳作）を祭る。

〔活動〕 祈禱は一人です。他へは行かずここが箱作（大阪府泉南郡）です。箱作に海の家「ときわセンター」を持ち、貸祈禱所になっている。

行事は、1月15日、2月10日、3月3日、4月8日、5月5日、6月6日、7月7日、7月14日、9月9日、10月15日、冬至。毎月1日と15日には信者が来る。

「観音経を読むと神の力が入る。それで悪いものを解き放つ。」

「シニムとポサルは大嫌い。やり方が違うのでけんかになる。生駒山の朝鮮寺は行ったことがなく、聖天さん（宝山寺）と信貴山（朝護孫子寺）しか知らない。」

「不幸の原因は、建てていけない場所に家建てたり、ミーさんがのり移ったり、先祖をちゃんと祭らなかったり、墓をちゃんと造らないとか、地獄に落とされた先祖がいるなど、それでなくても無縁で死んだ人が多くいるので、その人々の霊がひつつく。見たら原因分かる。」

「箱作は海岸で人に迷惑がかからないからよい。駅から近く、年をとってもいける。観音さまが教えてくれた。昔から韓国の人が行ってお祭りをしていたというが私は知らなかった。夏は民宿になる。」

「夫婦の両方に蛇がのり移って、10年間シンバンが拝んでも精神病院へ行っても直らず、私の方へ頼んできた。坊さんを連れていって拝んだが効果がない。神さんが自分だけで拝みなさいといったのでしたら、その奥さんは座ったまま高く飛び上がり、他の人たちが墜落しないように支えた。その主人は座ったまま大量の大便をした。それで病気が直った。」

「名古屋の警察で事故で死にかけた人を助けた。」

「私の霊力は前は有名で、カナダ、アメリカからも金持ちの外人が来て祈禱を頼まれた。読売テレビからも取材に来たが断った。本当に偉い人は出ないものです。」

「これからの時代は、ミロク菩薩が出てくる時代。2000年までに人間が発展しすぎてこれ以上は具合が悪くなるころまで来ている。」

「(総理大臣室で撮った写真が壁に掛けてある) —昭和55年に息子が北朝鮮へ行ったので自分も訪問したかったがいろいろと難しかった。東京へ行って社会党それから公明党も尋ねたが担当者が留守だった。そこから総理官邸に電話してもらおうとしたが出来ないといわれ、自分で直接(神さんがさせたのでしょうか)かけたら、来て下さいといわれ、鈴木総理と会い食事をした。その時に総理の椅子に座って撮った写真です。私の頭の横に霊光が写っているでしょう。」

(調査：飯田、'88 12/2)

#### (18) 天下寺神

[真言宗 鄭東奎(通名吉本政雄) 生野区巽北 1-2 有楽荘]

[住職経歴] 明治44年(1911年) 済州道朝天面生まれ。13才で日本に来る。30いくつで能登の輪島に行き40過ぎてこちらに来た。車谷の寺(台風で屋根が飛ばされお不動さんだけあった)に2年半住んだ。額田の梅原先生(梅原良善、長尾山教会信貞寺、不動寺(昭和25年)の創立者)についた。寺田町の日本の先生に護摩焚きを習い、大峰山にも団体で登った。それから山という山に登って行をした。

[創立] この寺はここで2年前からしている。その前は万才橋(生野区)にいた。寺の名は車谷の神さんの名前を借りた。

(「天下神寺」と書いた紙札があったが、表札、祭壇横の提灯ともに「天下寺神」となっている。) 小さな祭壇には阿弥陀像、釈迦像、不動像のほか鄭家、〇〇家の位牌、山神図が祭られている。

[活動] 「祈禱のほかマッサージ、ハリもする。クッはしない。商売でしているのではない。星田の寺で夏に護摩をたく。」

「終戦時ヤミ米を運んでいた人の息子が死んだのをハリで生き返らせたことがある。お礼に米一俵もらった。」

「祭壇の前に座ればいろいろな霊、水子などが自分に降りてくる。女の人が入って来ると、その後から海で死んだ人がついてくるのが見える。」

「祭っている不動明王さんがきついで、創価学会も天理教も入れない。不動明王さん拜んでハリして子供の病気を直した事がある。お不動さんの前でウソいうたら許されない、『なんでウソいうか』とポカッと殴られる。」

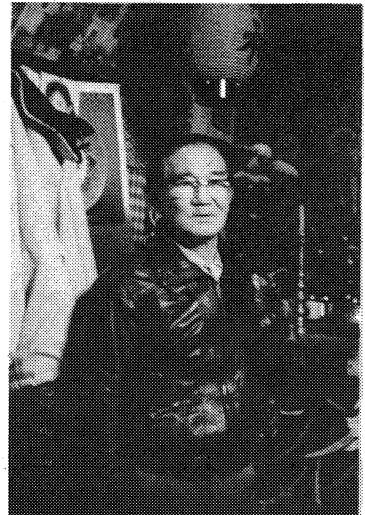


写真13 天下寺神 鄭東奎氏

「今、体悪く、身よりない。枚岡の一番上の寺(?)に縁がある。」

(この「寺」の隣室は来日ポサルの運勢鑑定所、路地を挟んだはす向かいに(37)韓日日韓仏教親善協会大阪支部がある。)

(調査：飯田、'89 2/3)

#### (19) 寶音寺

[真言宗高野山教会 吳辛生(女性) 生野区小路 2-25-19]

[住職経歴] 1912年頃済州道生まれ。1936年来日。

[創立] 10年前スニムであった夫死去、吳さん後を継ぐ。

[活動] 額田の正覚寺でよくオガミをする。

四国八十八ヶ所を信者と巡った。

(調査：寺岡、'88 12/9)

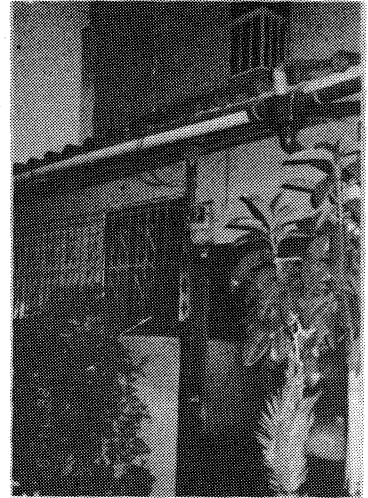


写真14 寶音寺

#### (20) 尚容院

[金峰山寺別院 星元尚妙(本名尚容、女性) 生野区小路 3-9-31]

[住職経歴] 日本生まれ、40才。本籍は慶尚南道。生来病弱で長くないといわれてきた。占いに関心をもち本など読んだ。

結婚してからも占いの本を見て知り合いなどを占っていたが、親類の勧めで吉野金峰山の妙映師のもとで修行した。

[創立] 1976年頃から家に祭壇を設ける。1986年創立。七星、山神祭る。

[活動] 月例祭のようなものはない。口コミで人が各々訪れる。

釜山の金敬益シニム、蔡甲連ポサル夫妻(法華宗、青明寺)が滞在。弟子は尚伸(日本人)、尚善、尚海の三人。

(調査：寺岡、'89 1/13)

#### (21) 妙教寺

[真言宗醍醐派 中村和子(本名李仁和、女性) 生野区中川東 2-15-7]

[住職経歴] 1930年頃生まれ。

[創立] 15年位前(1973年?) 創立。

[活動] アメリカ滞在中。曹溪宗僧、宋大惺氏留守を預かる。

(調査：寺岡、'89 1/26、話し手宋氏)

#### (22) 龍雲寺

[高野山大師教会 朴命巖(法名英泉 通名松野彰夫) 韓国籍平野区加美北 3-1-11]

[住職経歴] 朴氏1914年慶尙北道生まれ。子供の時は漢文を習った。1940年種子島の飛行場工

事へ強制徴用。肺病にかかり、龍泉寺(22)趙氏の紹介で高野山龍泉院に3年籠る。勉強よりも作業ばかりさせられた。44、5才からこの道に入る。生駒トンネルの上の月峰寺に13年いた。大師教会免許は20年以上前にとった。

〔創立〕 74年宗教法人化。

〔活動〕 シンバンと一緒にクツをすることはない。

「今は自分の体のために寺を続けている。」

「結婚の相性などを聞きにくる。墓碑も書く。人分の本質（家門）が分からない人に本を調べて教えることもある。」

「生駒の大仁寺。辻子谷の一成寺と行き来ある。」

「龍泉寺趙和尚には在日韓国仏教会でも世話になった。在日では一番の坊さんだろう。」

子供二人は独立、跡継ぎはない。奥さんと二人で暮らしている。

（調査：飯田、'88 12/9）

## (23) 龍 泉 寺

〔趙鏞柱 韓国籍 住之江区浜口東 2-3-12〕

〔住職経歴〕 1921年慶南道咸安郡東村里生まれ。父が亡くなったので、9才で東來の梵魚寺に入る。43年釜山にあった西本願寺派の大覚寺の管長の紹介で来日、本願寺に行くが戦争で人がおらず勉強できなかった。京都にオジがいたのでそこでぶらぶらしていたが、44年帰国。47年密航で再来日、大阪市西成区に来る。52年高野山龍泉院で得度、寺をつくる。63年「在日韓国仏教会」を作り、75年解散時まで会長。妻はボサルではない。息子のうち二人は日本籍となっている。

〔創立〕 1952年西成区潮路通4丁目17に龍光寺創立、同年龍泉寺と改名。55年現在地に移転。56年法人化。78年建物新築、1Fは本堂と住居、2～4Fはアパート。

〔活動〕 「この頃はあまり活動しない。昔の信者は亡くなり若い人は来ない。信者は今はおるようでない。」

「遺骨を預かっていたが改築のとき皆返した。葬式はする。四柱推命、相性などみる。」

「この寺ではクツはしない、大きな音がするので。済州島の人たちとはやり方が違う。シンバンとはしない。自分には靈感ない。」

「昔は生駒の寺にもよく行った。梅屋敷の望月寺、四条畷の白龍院、車谷の保惠寺、辻子谷の舍利寺、清谷寺、額田谷の信貞寺、月宮寺、枚岡の徳成寺など。」

「（「在日韓国仏教会」について）、—「戦後『朝鮮仏教徒連盟』に入ったが北系の団体だったので脱退した。その後この会をつくった。山の寺の人達がなにも分かんたとオガミをしているから、儀式の仕方など講習会で教え団結しようとした。少数の北朝鮮系の寺も入っていた。しかしまもなく有名無実となった。1969年には『在日本大韓仏教会』ができ先の会の寺もこれに加盟したが、この会もしばらくして活動しなくなった。」

（趙氏に示された1963年7月1日付「在日韓国仏教会名簿（仮）」は、生駒の寺も含めて全国で69寺、191名が記載されている貴重な資料である。現存の寺との比較によって、在日の「寺」の激しい



変遷を知ることができる。)

(調査：飯田、'88 12/23、'89 1/22)

#### (24) 平 和 寺

[太古宗 成照星 神戸市長田区蓮宮通 6-3]

[創立] 1954年成智信氏が現在地で創立。以前から近くで小さな信者の集まりをもっていた。太古宗は妻帯を認める韓国の仏教宗派。宗教法人法の施行とともに法人化。所有地を新幹線用地に売却した資金で1969年本堂、庫裏、住居をつくる。現在智信氏病氣、子息の照星氏が継ぐ。共に浄土真宗本願寺派の僧籍もつ。諸仏の他に、七星、山神図を祭る。

[活動] 葬式多い。この地域は、ケミカル・シューズ業に従事する在日住民が多い。

69年頃が最盛期、信者が100人集まることもあった。

智信氏は龍谷大学卒業、69年「在日本大韓仏教会」を作り会長、しかし、4、5年しか続かなかった。

4、5年後に都市計画により移転することになっている。照星氏は移転問題に関心を注いでいる。

(調査：寺岡、'89 2/7、話し手照星氏)

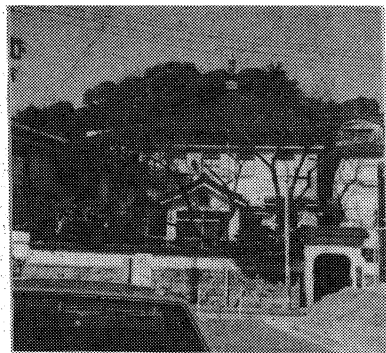


写真15 平 和 寺

#### (25) 恩 光 院

[下其男、柳妙瑞(女性) 生野区桃谷 4-7-21]

#### (26) 観 音 寺

[大峰山桜本坊教会 金本良清 生野区桃谷 3-14-6]

ナイロン・シンバンと通称される。

#### (27) 康 成 道 院

[康成道 生野区勝山北 5-19-28]

1963年の「在日韓国仏教会名簿」に康成道氏の氏前記載あり。

#### (28) 大 成 寺

[高原浄年 東成区東小橋 3-10-13]

1963年「在日韓国仏教会名簿」に掲載。

#### (29) 寶 巖 寺

[金本光司 東成区神路 3-17-8]

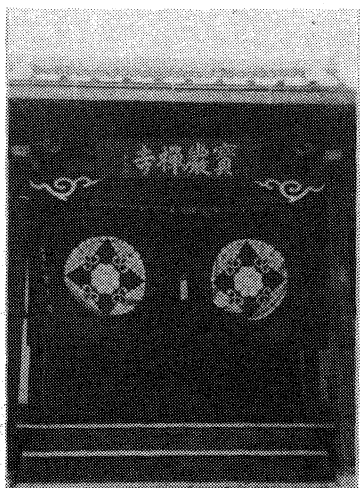


写真16 寶嚴寺



写真17 幸楽寺

(30) 幸楽寺

[李光珠（法名青山法全） 東大阪市荒川 1-14-3]

63年「在日韓国仏教会名簿」掲載、役員。69年「在日本大韓仏教会」作るが現在は機能していない。

(31) 法輪寺

[韓鐘洙 西宮市青木町 14]

63年「在日韓国仏教会名簿」掲載。

4. 独立系寺院；教義、組織、活動ともに独立的なもの。



写真18 無窮正道教総本山

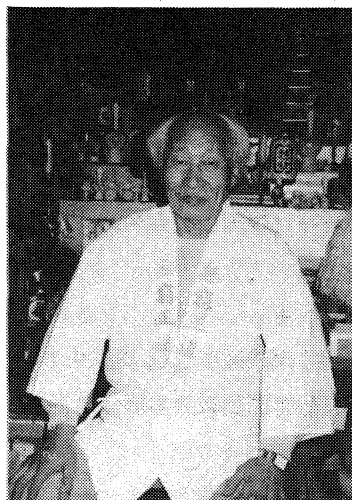


写真19 無窮正道教 金宗基氏

## (32) 無窮正道教 総本山

[単立宗教法人 金宗基 (通名金盛良夫) 生野区鶴橋 2-12-19]

[住職経歴] 1925年大阪市生野区猪飼野生まれ。本籍全羅南道木浦。父から漢文教わる。浪速商業学校二部、京都商業学校中退。終戦前、人生の問題を考え、徴兵から逃げていた。

「朝鮮動乱の前、24才の年5月5日に、お経を頂く夢を見た。三人の天女が経をもって現れ、これを読めば命の危険はない、鉄砲の玉もよけられると告げた。7月7日には別の夢。神将の首を切ると、その神将が追いかけて来た。前の夢に現れた老人がまた現れて、経を唱えよというので唱えようと神将は倒れた。その後色々な職を転々とする間、図書館にもいって夢の意味を調べたが分からなかった。50才の時、美紀紙工KKという会社を経営していたが、体に変調をきたし80kgの体重が53kgになり、頭髮眉毛が抜け真っ白になった。漢方薬を調合し（父が漢方薬師だった）箱作に行つて（昭和38年から海の家「幸楽センター」を持っていた）療養し、座禅をしたらスーッと全部のことが一お経のことも全部一分かるようになった。夢遊状態が続くなかで無窮正道教の名が示された。」（1966年発行の『日韓新時代の顔 第一巻』での金宗基氏の紹介にはすでに無窮正道教を始めていることが記されている）。

かつて在日向きの「大東霊園」を経営。箱作海岸の「幸楽センター」は貸祈禱所でもある。他に会社も経営。

[創立] 1975年頃教会創始。85年宗教法人となる。大極神君を主神とする独自の教義のもとに整体療術と祈禱を行う小新宗教である。

[活動] 信者約1000名、案内出す人は4～500人くらい。療術受ける人は、信者として護持会に入会することになる。「六対四くらいで日本人の方が多い。しかし通名を名乗っておればどちらか分からない。」

四柱推命、運勢、風水も見る。

行事は1月15日（今年は22日）、5月5日、11月末または12月初。

教師資格は、正導師、導師、伝導師、教導師、布教師、補導と七段階あり、合わせて百人近くの弟子がいる。

大東霊園は有限会社東大阪老人会の事業として昭和36年発足、父、金珍文氏が作り自分も昭和46年から59年まで社長をしていた。約2000坪、200基のほとんどが韓国人の墓。4～5年で満杯になった。しかし名義や委任状を利用しての日本人による不正があり、裁判でも敗訴し昭和59年権利を失った。墓地は萩の台霊園と改名され大手業者によって新たな造成がされ分譲中である。金宗基氏はその内の720坪の土地は彼に所有権があるとし、裁判で係争中である。

「韓国に関する予言を、昭和52年に出したがこれまでの分は当たっている。これからの分は、1992年北朝鮮に政変、南北朝鮮混乱、1997年ヒノエネズミの年、統一実現。」

資料『宗教法人無窮正道教教義』（1985年）

『無窮正道教の葉 創刊号』（1985年）

『宗教法人無窮正道教教典』

『宗教法人無窮正道教教理體系図』（1987年）

『序 同心結図同解説』(1959年)

『日韓新時代の顔』第一巻、1966年、国際日報社、(日本および在日の実業家各50名の経歴、人物紹介など、金宗基氏も掲載。外務大臣椎名悦三郎序文。)

(調査：飯田、'89 1/26、2/2)

### (33) 大天心寺

[大天心院宗 慎洙善 韓国籍 生野区巽南 5-2-41]

[住職経歴] 1946年日本生まれ。本籍済州市一徒一洞。子供の時から靈感あった。両親は宗教家ではない。師はいない。山本の宝教寺、信貴山弁天の滝、生駒山岩屋の滝などあちこちの滝で修行した。大峰山、吉野山にも行った。修行時代はシンバンと一緒にクッもしたが今はしない。

妻は宗教者ではない。家ではジェサ(儒教式先祖祭祀)しない。

[創立] 1978年平野区で創設。85年に現在地に移る。87年宗教法人化。金のマークをつけた真新しい3階建ての教会。1F本堂、2F事務所、3F位牌祭壇(40~50基祭る)。敷地を接して住居。今年小分院を葛城山につくる予定。

[活動] 祈禱が主の小新宗教。一日(ついたち)参り、花祭り等はするが定例行事は重要でない。日々の修行が大事。「きにわ」もする。弟子は6人ほど。祈禱は一人であることが多い。

信者250~300名、相談に来る人いれると600人位。信徒組織は無い。

「大天心界」を理想とする。「南無吉光金十全一」の題目が中心シンボル。

「手を合わさずに生きて行ける人を作ってゆきたい。宗教や霊能力などなければその方がいい。」

「私は韓国人だが、私のやっている宗教は差別や指紋押捺など社会問題とは一切関係が無い。」

(調査：飯田、'88 12/9)



写真20 大天心寺

### (34) 天尊の家

[天尊(天父、天母) 生野区中川 2-5-20]

[天尊経歴] 天父は本名牟幸龍、1934年慶尚南道生まれ。天母は朴貴達、1949年生まれ。1974年、二人はそれぞれ天界の天尊より使命を授けられて出会い、ずっと山で祈禱修練を続けた。1984年に「天尊の家」を造り、活動を始める。1985年(天紀元年)、二人は地上の天尊として再誕した。

[創立] この地(シンバン金萬宝氏宅の一階)には、昨年より支部をもうけた。



写真21 天尊の家 両天尊

〔活動〕 天尊の教えと天手マッサージにより病気を癒す。

「天尊は宇宙を造った神様、玉皇上帝。神そのものは目に見えないが人の形を通して姿を現わす。それが地上の天尊様です。」

「ソウルに本部（江南区大峙洞936—31）がある。支部は釜山、光州など10数ヶ所。東京にもある。弟子は百人以上。」

「神さまから日本に渡って伝えよと言葉があった。あとどれくらいいるか、一、二カ月もいるかどうか分からない。命令があれば明日にもどこへでも行く。神戸にも支部あったが、大阪へ行けと命令があった。（弟子の姜氏（1931年生れ）は不動産屋をまわって場所を探した。）たまたま鶴橋駅の近くの食堂に入って話をしていたら、主人が金萬宝シンバンの友人で、すぐ電話をしてくれた。昨年も天尊様はこちらに来て、金氏の病気を良くしたことがあった。それで金氏は自宅を使って下さいということになった。」

「メキシコ、パラグアイ、アルゼンチン、ボリビアでも活躍した。パトカーが出るほど多くの人が集った。」

「これは金もうけではない、（キリスト）教会みたいに金を要求したことはありません。」

日本には、韓国からすでに金もうけの祈禱師たちがたくさん来て、すっかり信用を落としてしまったのでやりにくい。あまり人も来ない。」

（話は、日本語の上手な弟子の姜氏がしてくれた。現在ここにはもう「天尊の家」はない。）

資料『天尊の言葉』、天尊の家発行、197ページ。日本語版。

『天尊の能力』、天尊の家発行、31ページ。日本語版。

『天道仙法』、天尊の家発行、120ページ。日本語版。

『実証小説 神』、姜大鳳著、1987年、汎潮社、302ページ、ハングル版。

『神術』、崔明集著、1986年、精神世界社、262ページ、ハングル版。

「天尊消息」、定期刊行物、ハングル版。

（調査：飯田、'89 2/3）

## 5. 日本仏教系寺院；非修験系で日本の伝統仏教寺院を在日が住職として継承したもの。

### (35) 国 分 寺

〔黄檗宗 天野法山 日本籍 天王寺区国分町 11-21〕

〔住職経歴〕 1914年京畿道仁川生まれ。19才から黄原道金岡山楡天寺で修行。満州、北京などあちこちの寺に行くが憲兵に追い出されソウルに戻る。1942年27才で来日。3年間学校に入るが軍事教練ばかりさせられた。兵役を逃げ回って、知り合いのついでで宇治の黄檗山万福寺に入る。昭和22年、同宗のこの寺に来て、戦災で焼けた寺を再建した。初め朝総連に入っていたが離れた。67年頃日本に帰化。子供らと生活していく道として帰化を選んだ。在日の人々や寺とはそれ以来縁が薄くなっている。

〔創立〕 八世紀聖武天皇立願の摂津国分寺が起源とされる。市教育委員会が建てた石碑あり。

十七世紀に黄檗宗寺院として重興。戦災で全焼、戦後天野氏が住職となって昭和28～9年に再建。1988年子息が後を継ぐ。

〔活動〕 戦後、在日の人々集まる。在日の遺骨預かりは最盛期には約1200柱。今、遺骨約500柱預かっている。釜山近辺出身者の遺骨が多い。近年の墓地ブームで遺骨預け減る。納骨料2万円、供養料年3000円。檀家はない。今は年中行事もなく信者が集まることもない。寺の経営難しい。

「昭和25～6年頃仏教会といってムダンの人達がお経を教えてくれといって来た事がある。東京も合わせて30人位いた。北や南に帰った人もいる。」

(1963年の「在日韓国仏教会名簿」では国分寺金法山氏が会長となるが、結成式のとき脱退した。)

今年1月子息に跡を継がせた。就職を希望していたが納得させて、本山で修行させ継がせた。

(調査：飯田、'88 6/6)

### (36) 仏 国 寺

〔京都市伏見区敦賀町〕

1963年の「在日韓国仏教会名簿」に掲載。当時住職は鈴木皓滋氏。同氏は子供の時来日、仏国寺住職の養子となり、後を継ぐ。20年以上前に亡くなった。同寺には在日の墓が多い。(話；(32)龍泉寺趙鏞柱氏)

### (11) 萬 寿 寺

p.72 参照

## 6. そ の 他

### (37) 韓日日韓仏教親善協会大阪支部

〔支部長神田英常（日本人） 李竹子（女性）  
韓国籍 生野区巽北 1-2-13 第二有楽荘〕

〔住職経歴〕 李竹子氏は法相宗のポサルでソウル生まれ、58才(1989年時)。泉佐野に5年、大阪に2年半いる。神田氏は5年前からの友人で、大阪で寺を作るのに協力している。

〔創立〕 韓日日韓仏教親善協会は1982年比叡山延暦寺大僧正中野英賢氏と韓国一鵬禅教宗宗正徐京保氏が中心になって設立し、毎年韓日交替で戦没者合同慰霊祭を行う。支部長神田氏は中野氏弟子で日本人。李竹子ポサルは徐京保氏の弟子。同協会支部と来日ポサルの家（寺？）を兼ねている。

〔活動〕 ポサルの信者は100人位。信者名を書いた小さな灯明が70ほど祭壇に並べられていた。当時、韓国に帰っていて留守。子息の閔庚勲氏に聞く。同氏は28才、来日6ヶ月、高野山で仏教を

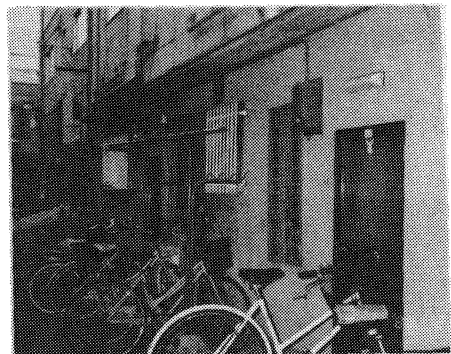


写真22 韓日日韓仏教親善協会大阪支部

学んでいる。

ムーダン（巫者）の寺が多いので布教は難しいという。

[その他]；釈尊教団大乘仏心会大阪支部を兼ねている。同会の中野英賢氏が設立した宗教法人で岐阜に正法寺があり企業研修などを行っている。

（路地に面したアパートの一室をしめ、祭壇など他の街中の「寺」と変わらない。同じ路地に天下寺神<sup>(18)</sup>と来日ポサルの運勢鑑定所がある。）

（調査：飯田、'88 12/12 話；関庚勲氏）

### (38) 龍 王 宮

[高田義男 都島区中野町4-15-8]

[管理者経歴] 昭和20年大阪生まれ。東京の大学で学び新聞社に就職していたが、管理者であった父が亡くなったので、昭和57年から跡を継いだ。ここで金属回収業の高田商店の経営と龍王宮の管理を兼ねている。自分では宗教活動は全くしない。

[活動] ここは、淀川に張り出したクッや祈禱専門の貸会場であり、街なかにある在日の一大祈禱センターである。古いバラック建てで大部屋2、小部屋4を備え、同時に複数の祈禱を行うことができる。定期的な祭壇や仏像などは何もない。毎日祈禱師と客がやって来て部屋を借りる。入場料2000円。祈禱は1～2時間から丸1日かかるものまで。（もっと規模の大きな祈禱は生駒山の寺です。）

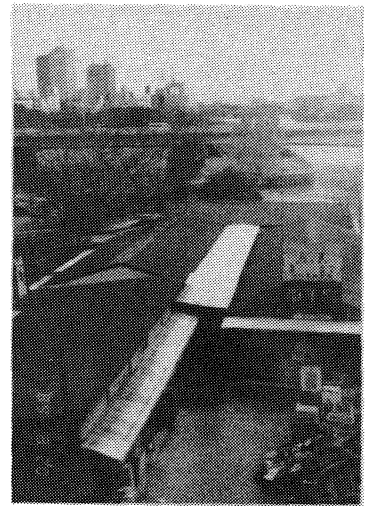


写真23 龍 王 宮

来る人は済州島出身の女性で、2、3世も来る。

先祖祭りや病気直しのために祈禱をしに来る。済州島では先祖は海にいとを考えられており、こも海とつながるところとして供物などを流す。

年中行事は、1月15日；海の神を拝む、150組くらい来る。旧の6月7日、8日は夜通して海の神を拝む、200組くらい。7月7日；七星の日。11月7、8日も海の神を拝む。

ここへ来るボサム、スニム、シンバンは40～50人位いる。

[創立] あちこちの川べりで在日の人々が祈禱を始めたのは、大正13～4年頃から。しだいに便利の良いここ桜の宮に集まるようになった。戦後になってバラックを建てて拝み屋が住みついた。この人が初代。二代目もシンバンで清浦という人。三代目は現経営者高田氏の父（在日）で寄せ場をやるため権利を買い取った。

ここは河川敷で占拠状態が続いていることになる。先代は橋をかけたり、土地を上げたりして投資してきた。大阪府から立ち退きと代替地提供の話が何度もきたが条件が折り合わない。韓国人の宗教の場を無くすわけにはゆかない、と高田氏はいう。

（調査：飯田、'89 2/12、『生駒の神々』参照）